

# 純白の羽に覆われた神秘的な冬の使者



## オオハクチョウ カモ目カモ科ハクチョウ属 *Cygnus cygnus*

夏季はユーラシア大陸北部、シベリアやオホーツク海沿岸で繁殖。寿命は約15～20年と言われている。成鳥は全体的に白いが、幼鳥は灰色で、徐々に白くなっていく。2～3年で成鳥になる。

## 飛び立つときに助走する大型の渡り鳥

冬空を飛翔する白い鳥。冬の風物詩ともいえるハクチョウの姿が、今年も見られ始めました。

ハクチョウにはいくつか種類がありますが、日本で越冬するのは主にオオハクチョウとコハクチョウの2種類です。見た目はよく似ていますが、文字通りオオハクチョウのほうが身体が大きく、全長は140～165cm、翼を広げたときの大きさは200cmを超えるほどです。長距離を飛ぶ鳥の中では最大級の大きさになります。

オオハクチョウは、シベリアから本州北部や北海道に渡ってきます。その距離、およそ3,000km。ノンストップで飛んでくるわけではなく、中継点で休みながら約2週間かけてやってきます。10月上旬から日本へやってきて、4月下旬に再び繁殖のためにシベリアへ渡ります。オオハクチョウは身体が重いので、空を飛ぶ際、大きな水掻きで水を蹴って、10mほど助走してから飛び立ちます。着水するときは、この大きな水掻きをブレーキ代わりに使って水を押さえつけるようにして止まります。

## 絆が強い一夫一婦制

家族はつがいと数羽の幼鳥から構成され、数十羽から数百羽の群れを作って行動します。

夏季の繁殖期には一度の産卵で4～7個産み、雌が卵を温め、子育てを雌雄共同で行います。孵化後、雛は2カ月で空を飛ぶことができるようになります。家族の絆が強く、つがいはどちらかが死ぬまでずっと一緒に過ごします。

食性は草食性で、水中や水面の水草や陸上に落ちている青草などを食べます。水中の草を食べるときは頭を突っ込んで逆立ちをして採食しています。足とお尻だけが水面から出ているその姿は、まるでシンクロナイズドスイミングのようです。

ハクチョウやガンなどの大型の鳥は、V字型や斜め一列につながった編隊飛行をしています。あの編隊飛行は、エネルギーの消費を少なくするための知恵だということをご存知でしたか。大型の鳥が飛んでいる時、翼の先端から後方に渦状の乱気流ができます。その乱気流の斜め後ろに上向きの気流ができます。後ろを飛ぶ鳥はその上向きの気流に乗って、エネルギーの消費を少なくしているのです。

先頭で飛んでいる鳥は、エネルギーの消費が激しいということになりますが、ときどき他の鳥と場所を交代しています。先頭を飛んでいるのはリーダーというわけではないのです。日本でゆっくり越冬して、春には元気にシベリアへ戻ってほしいですね。